

since 1920

運輸新聞

E-mail inquiry@unyu.co.jp URL http://www.unyu.co.jp

発行所・運輸新聞株式会社
東京都荒川区西日暮里3-6-10
佐々木ビル3F 〒116-0013
TEL03-5685-0035
関西支社 大阪市中央区瓦町1-3-2
〒541-0048 TEL06-6209-3261
発行人・野田裕之
火・金発行(祝日を除く)
3,600円/月(送料・税込)

2021年

7月6日(火)

第17409号

倉庫・物流センターのスマートリース



日通総研 21年度改訂見通し

輸出好調も内需は戻り緩慢

日通総合研究所は、3月に公表した2021年度の経済と貨物輸送の見通しを改訂した。国内貨物輸送量は、2020年度が想定より大きな落ち込み(6.3%減)となったことから21年度は再上方修正したものの、19年度比では3.0%減と力強さにかけている。

軽油高騰も懸念材料

前提となる21年の世界経済見通し(IMF)は、世界全体では6.0%とV字回復するものの、日本は3.3%と欧米諸国と比較して抑えられている。特に個人消費が29.0兆380億円(前年度同期より30兆円増えたり、「財政支出の拡大に

IMFによる世界経済見通し

| | 前年比% | | |
|---------|-------|-------|-------|
| | 2019年 | 2020年 | 2021年 |
| 世界 | 2.8 | △3.3 | 6.0 |
| 日本 | 0.0 | △4.7 | 3.3 |
| 米国 | 2.2 | △3.5 | 6.4 |
| ユーロ圏 | 1.3 | △6.6 | 4.4 |
| 英国 | 1.5 | △9.9 | 5.3 |
| 中国 | 6.1 | 2.3 | 8.4 |
| インド | 4.2 | △8.0 | 12.5 |
| ASEAN 5 | 4.9 | △3.4 | 4.9 |
| ロシア | 1.3 | △3.1 | 3.8 |
| ブラジル | 1.1 | △4.1 | 3.7 |

なほ、原油輸入価格(CIF)は1バレル70.3ドルと想定、20年度より6割高い。軽油価格に即反映はしないが、相当高くなる見込みだという。

歯止めをかけた向きもあるが、緊急事態にあることを勘案すれば財政よりも景気を優先した運営を政府に求めたい(佐藤信洋シニアコンサルタント)と述べている。

できるが、19年度の水準には程遠い。輸送機関別には、営業用自動車は19年度水準近くに回復するが、軽油の高騰が懸念される。内航海運は8年ぶりの増加、国内航空は4月以降2ヶ月増と戻ってきてはいるが、リードタイムが1日遅くても良いといった見方も出ており、厳しい状況が続くとみている。

国内貨物輸送量の見通し

| | 単位=百万ト、% | | |
|--------|----------|-------|-------|
| | 2021年度 | 20年度比 | 19年度比 |
| 総輸送量 | 4,368.0 | 3.5 | △3.0 |
| 建設関連除く | 2,734.7 | 9.5 | △7.4 |
| JR | 27.6 | 3.2 | △5.8 |
| 営業用自動車 | 2,806.2 | 5.5 | △1.3 |
| 自家用自動車 | 1,196.5 | △1.6 | △6.2 |
| 内航海運 | 324.5 | 6.2 | △5.0 |
| 国内航空 | 0.561 | 31.2 | △28.0 |

国際貨物輸送量の見通し

| <外資コンテナ> 単位=千TEU、% | | | |
|--------------------|--------|-------|-------|
| | 2021年度 | 20年度比 | 19年度比 |
| 輸出 | 4,872 | 9.8 | △1.3 |
| 輸入 | 7,326 | 4.2 | 0.3 |

| <国際航空> 単位=千ト、% | | | |
|----------------|---------|-------|-------|
| | 2021年度 | 20年度比 | 19年度比 |
| 輸出 | 1,209.5 | 19.4 | 17.3 |
| 輸入 | 1,341.1 | 9.8 | 2.1 |

船腹不足が続いており、正帯化は1~3月とみている。輸入は内需の伸びが緩慢な状況が続く。国際航空は、20年度下期に急回復をみせ、21年度も半導体や自動車が増え、コンテナ不足の特需も続くとしている。

両省大臣表彰、国土交通省公共交通・物流審議会表彰、経済産業省商務・サービス審議会表彰、グリーン物流パートナーシップ会議特別賞に加え、今回から物流DX・標準化表彰、物流構造改革表彰を新設した。

新総合物流施策大綱の柱である物流DXや標準化の推進によるサプライチェーン全体の徹底した最適化や、労働力不足対策の推進と物流構造改革の推進に則った取り組みを行った事業者を表彰する。

高度化検討会 運行管理

年度内に制度化案

IT点呼のなりすまし防止

国土交通省は6月28日、今年度第1回「運行管理高度化検討会」を開き、IT点呼(遠隔点呼)の国交省による評価開始決定や自動点呼の実証実験内容検討、運行指示者の一元化の課題整理状況について共有などを議論した。

IT点呼については、4月から高度な点呼機器を使用した実証実験第1弾が開始されている。ポルテックスセイゲンや三菱電機ロジスティクス、JRバス関東などトラック、高速バス、乗合バス、タクシーなど7事業者が参加。

「点呼可能範囲に関する検討」「運行管理者のなりすましの防止」「交替運転者に関する判断」「運転者のなりすましの防止」「健康状態の確認方法の検討」など16項目を挙げ検討。運転者のなりすましの防止では、点呼実施予定の運転者が別の運転者の乗務員証を提示

あるいは氏名を名乗った場合、点呼予定のない運転者が点呼簿に記載の運転者の乗務員証を提示し名乗った場合、ともに運行管理者が気付き指摘できた。

自動化に向けて点呼機器などの要件を検討するため、参加事業者から提案された自主評価と、国交省による評価を実施する。第1弾の評価結果をもとに、9月末をめどに中間とりまとめを行う。10月以降も第2弾参加事

業者を加えて同様の評価を行う。自動点呼については、9月から乗務員点呼実証を開始し、点呼支援機器として使用するナブテック社のTenkoe Uniboの確認方法を基準に、点呼項目ごとにより厳しくすべき性能、緩めてよい性能などを明確化し、「想定される機器要件案」を精査していく。

来年3月までに点呼支援機器にかかる認定制度案をまとめ、次年度内に実施予定。運行指示者の一元化については、9月までに課題を調査し、10月から課題に対応するための条件



小木曾 聡 社長

日野自動車

新社長に小木曾氏

変革の時こそ「人づくり」を

日野自動車は2日、6月24日付で新社長に就任した小木曾聡氏の記者会見をオンラインで開催した。

小木曾氏は1983年にトヨタ自動車に入社、設計部門に配属され、10年後には製品企画部門で活躍、2018年から3年間CV Presidentを努めた。その後商用車関係に変わり、今年2月に日野自動車顧問に就任していた。

同社は来年、創業80年を迎える。小木曾氏は先人から志のこもったタスキを受け取る責任の重さをひしひしと感じているとして、日野自動車に大切にしてほしい2つのことを話した。

1つ目は、顧客、社会の役に立つことをすべて「私自身も、現場近くで仲間と汗をかき、当事者意識で行動できる」「人づくり」を、と述べた。

2つ目は、変革の時こそ「人づくり」。変革スピードが求められる時こそ、現実と謙虚に向き合い、現地現物で考え判断・行動していくチームが必要、という。

「私自身も、現場近くで仲間と汗をかき、当事者意識で行動できる」「人づくり」を、と述べた。

物流DX・標準化表彰など新設

国土交通省、経済産業省、日本物流団体連合会および日本ロジスティクスシステム協会は、令和3年度グリーン物流優良事業者の募集を1日から開始した。募集期間は8月27日。

選考にあたっては、従来の労働環境の改善、商習慣の見直し、地域などの価値向上、新規技術の活用などの視点も踏まえ評価する。



「人づくり」を、と述べた。

「人づくり」を、と述べた。



仕事で一息ついたとき飲む一杯のコーヒー、その香りと味わい深い苦みが気持ちよく和ませてくれる。コーヒーが苦いのはカフェインが多く含まれているからかと思いついてはいるが、そうではない。苦みの大部分はコーヒーに含まれている酸や糖やアミノ酸が焙煎によって化学反応を起こして生ずるもので、カフェイン自体は苦み成分の10%に過ぎない。焙煎の深さと苦みは比例関係にある。